

在宅生活改善調査結果概要

- 1 調査期間 令和 8 年 1 月 22 日から令和 8 年 4 月 30 日
- 2 回収率 100.0% (84/84 事業所)
- 3 調査の目的 介護支援専門員の視点から見た、在宅生活の維持が難しくなっている介護サービス利用者の実態を把握し、地域に不足する介護サービスを検討するための基礎資料とする。

4 結果概要

- (1) 過去 1 年間に自宅等から居場所を変更した利用者 (778 人) の行先 (P 5)

- ① 住宅型有料老人ホーム 237 人 (30.5%)
- ② 病院・診療所 148 人 (19.0%)
- ③ 特別養護老人ホーム 99 人 (12.7%)

※八戸市内での移動が 95%を超えている。

- (2) 市全体で在宅での生活維持が難しくなっている利用者 (P 8 から P 15)

ア 412 人

イ 主な生活維持が困難となっている理由

- ・独居世帯で要介護 2 以下の世帯
- ・身体介護の増大、認知症の症状の悪化、生活支援の発生・増大
- ・利用者本人が一部の居宅サービスを望まない、生活不安、費用負担
- ・家族等介護者の介護に係る不安・負担量の増大
- ・家族等介護者の負担となっている介護は、認知症症状への対応が最も多く、軽度者では外出の付き添い・送迎、重度者では日中の排泄介助が負担となっている。
- ・外出同行、見守り・声かけなどの日常生活上の支援が必要。

- (3) 在宅生活の維持が難しくなっている利用者の生活の改善に必要なサービスについて (P 16 から P 17)

ア 在宅サービス 222 人 (53.9%)

イ 特別養護老人ホームを含む施設サービス 179 人 (43.4%)

- ① 上記イのうち特別養護老人ホームの入所が必要な人は 83 人
- 83 人のうち、緊急で入所が必要な方は 9 人 (要介護 3 以上)

※参考：令和 5 年度調査

特別養護老人ホームの入所が必要な方は 92 人で、緊急で入所が必要な方は 26 人

- ② 必要な在宅サービス

地域包括ケアシステムの中核を担う 3 サービスである「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「小規模多機能型居宅介護」「看護小規模多機能型居宅介護」とそれ以外のサービスでは 3 サービス以外の必要性が多い。

在宅生活改善調査 集計結果

福祉部介護保険課

発送事業所数：84件

回収事業所数：84件

回収率：100.0%

(注1) 不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていないおそれがあります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。

(注2) グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。

(注3) 構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

【在宅生活改善調査】

調査の目的

- ・在宅生活改善調査では、「過去1年間」の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

調査の概要

- ・アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方にご回答いただきます。各ケアマネジャーは担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答します。
- ・それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
- ・本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

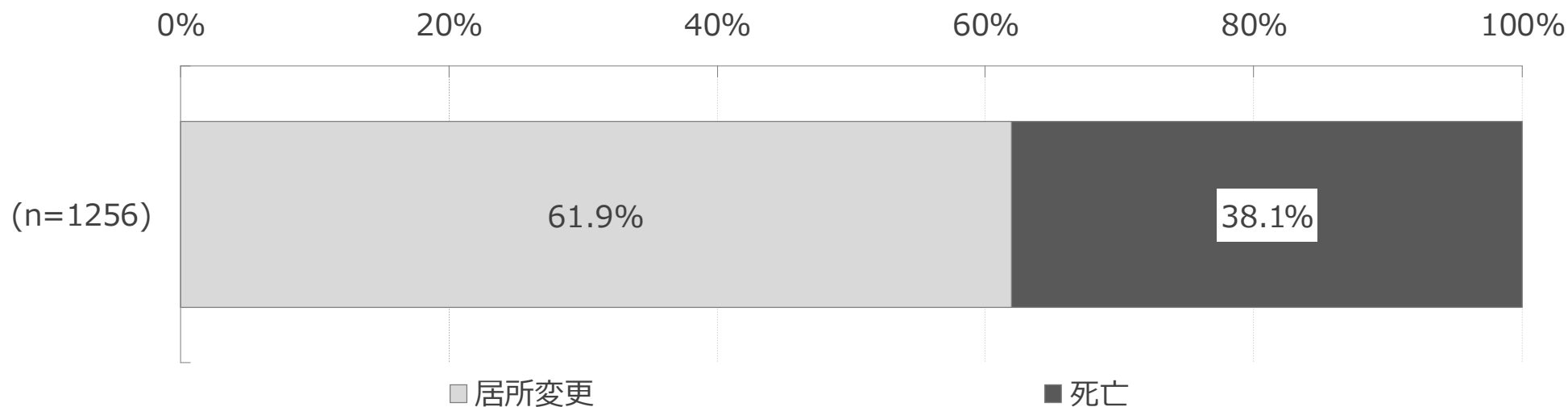
注目すべきポイント

- ・過去1年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいで暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
- ・現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
- ・生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

過去1年間の実績

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



八戸市全体で、過去1年間に
自宅等から居所を変更した利用者数



粗推計

778人

回答実数

778人

八戸市全体で、過去1年間に
自宅等で死亡した利用者数



478人

478人

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

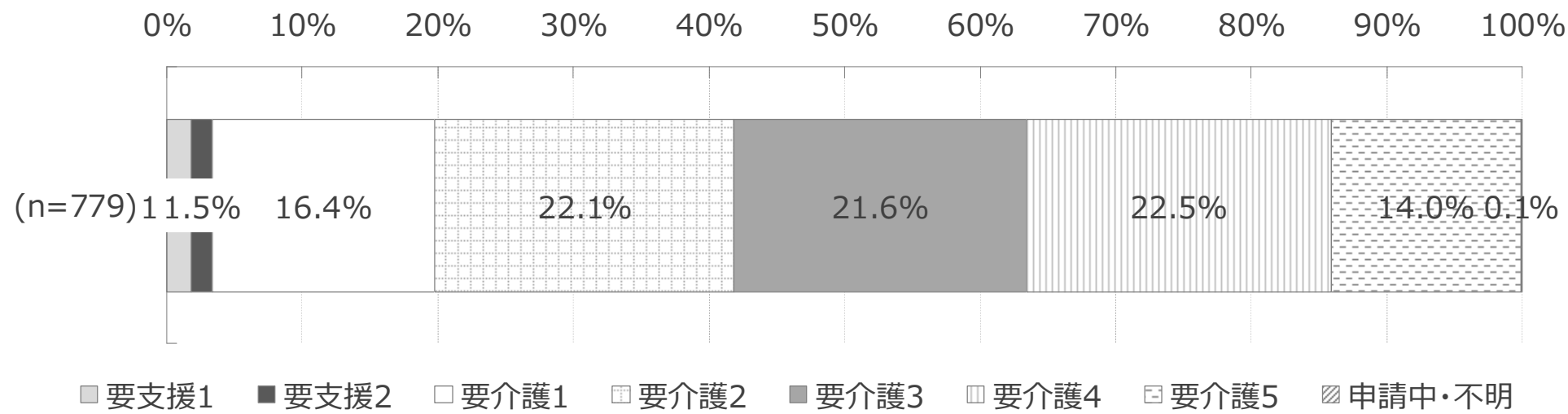
(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	19人	11人	30人
	2.4%	1.4%	3.9%
住宅型有料老人ホーム	228人	9人	237人
	29.3%	1.2%	30.5%
軽費老人ホーム	16人	0人	16人
	2.1%	0.0%	2.1%
サービス付き高齢者向け住宅	45人	2人	47人
	5.8%	0.3%	6.0%
グループホーム	55人	0人	55人
	7.1%	0.0%	7.1%
特定施設	25人	0人	25人
	3.2%	0.0%	3.2%
地域密着型特定施設	1人	0人	1人
	0.1%	0.0%	0.1%
介護老人保健施設	74人	1人	75人
	9.5%	0.1%	9.6%
介護医療院	8人	0人	8人
	1.0%	0.0%	1.0%
特別養護老人ホーム	91人	8人	99人
	11.7%	1.0%	12.7%
地域密着型特別養護老人ホーム	9人	0人	9人
	1.2%	0.0%	1.2%
病院・診療所	147人	1人	148人
	18.9%	0.1%	19.0%
その他	22人	3人	25人
	2.8%	0.4%	3.2%
行先を把握していない			3人
			0.4%
合計	740人	35人	778人
	95.1%	4.5%	100.0%

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
(注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

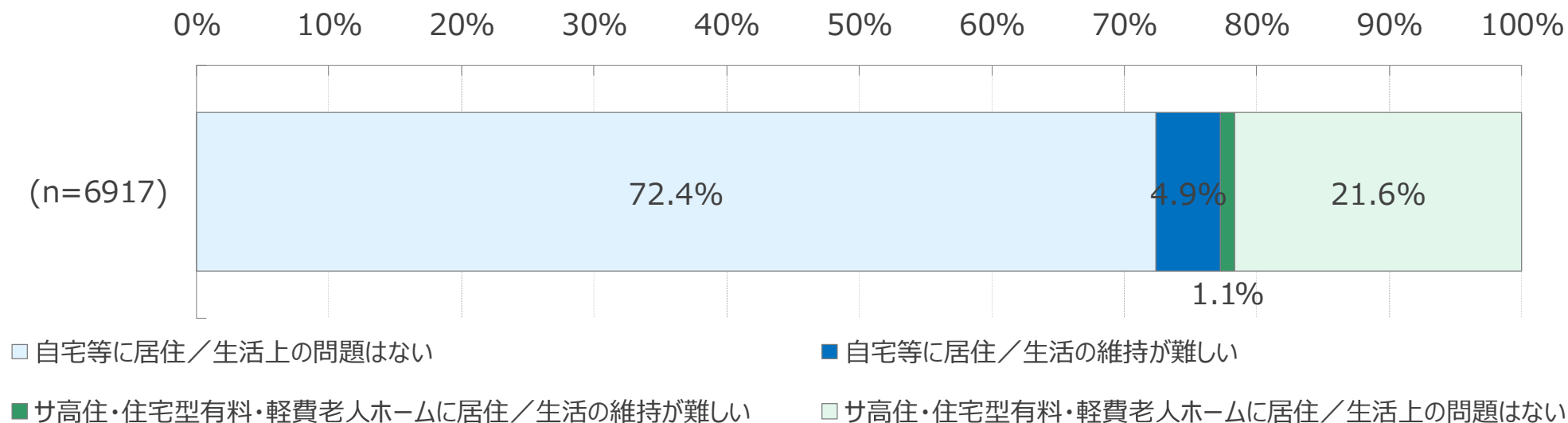
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(注)「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに
居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合

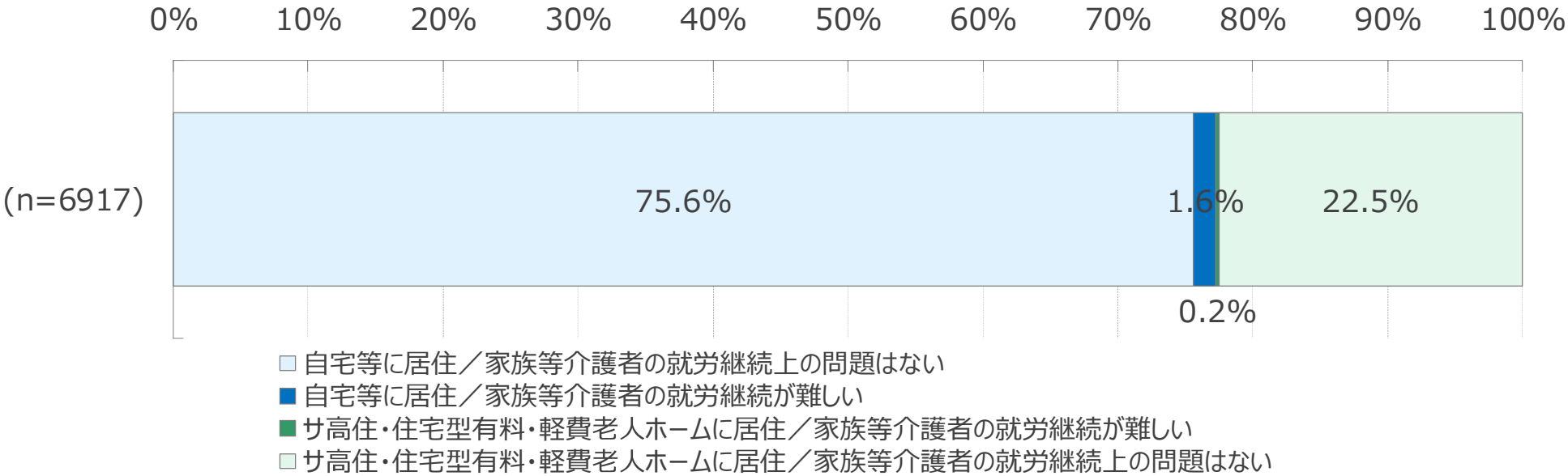
八戸市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数



	6.0%	
	粗推計	回答実数
合計	412人	412人
(要介護2以下)	233人	233人
(要介護3以上)	179人	179人

(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住する
利用者のうち、家族等介護者の就労継続が難しくなっている割合



1.8%

八戸市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数



合計

(要介護2以下)
(要介護3以上)

	粗推計	回答実数
合計	127人	127人
(要介護2以下)	66人	66人
(要介護3以上)	61人	61人

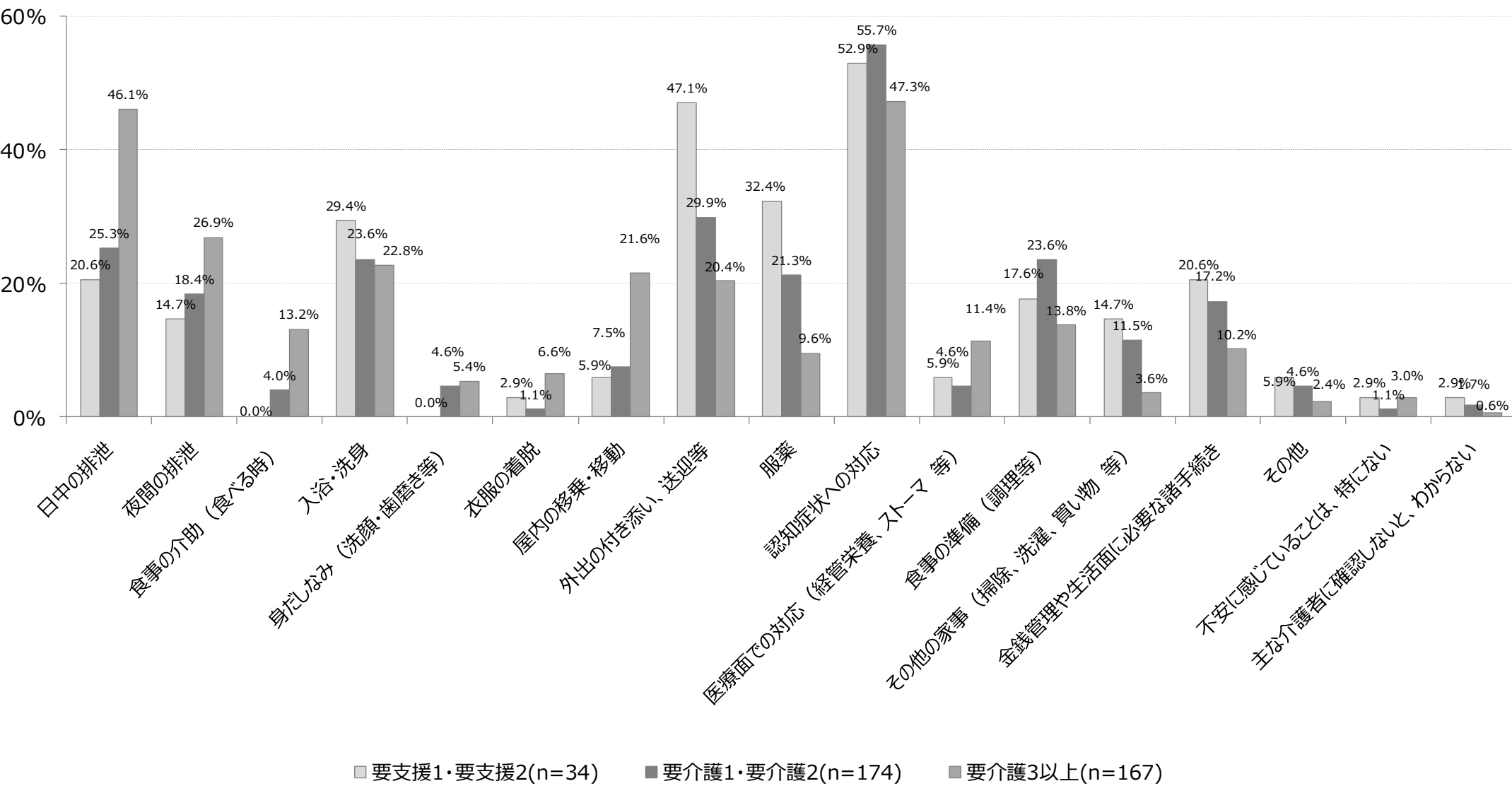
(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

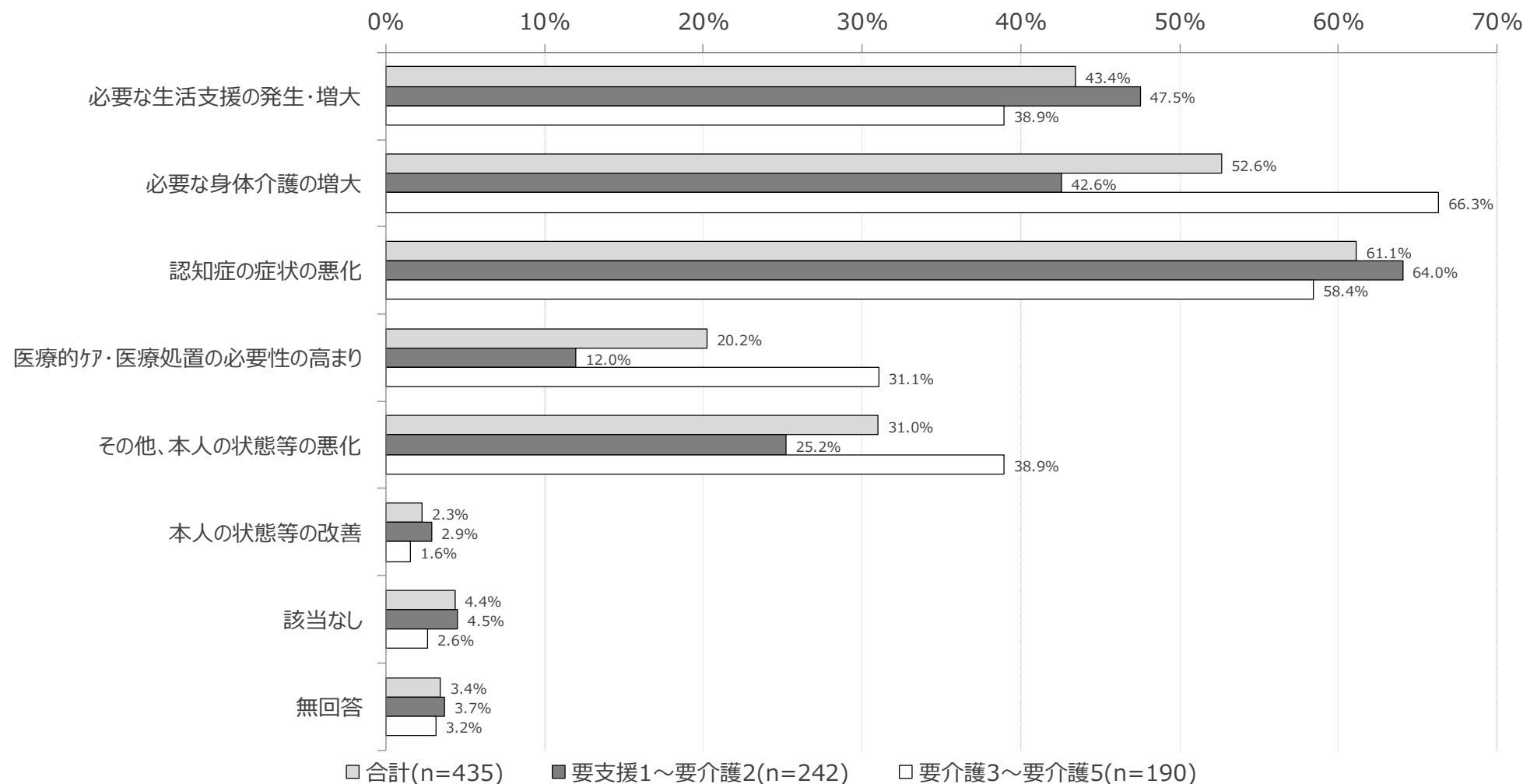
順位	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	介2以下	介3以上
1	114人	114人	26.2%	★				★	
2	61人	61人	14.0%	★					★
3	51人	51人	11.7%				★		★
4	46人	46人	10.6%		★			★	
5	43人	43人	9.9%				★	★	
6	41人	41人	9.4%			★			★
7	39人	39人	9.0%			★		★	
8	37人	37人	8.5%		★				★
上記以外	3人	3人	0.7%						
合計	435人	435人	100.0%						

(注)「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

現在、家族等介護者の負担になっている介護

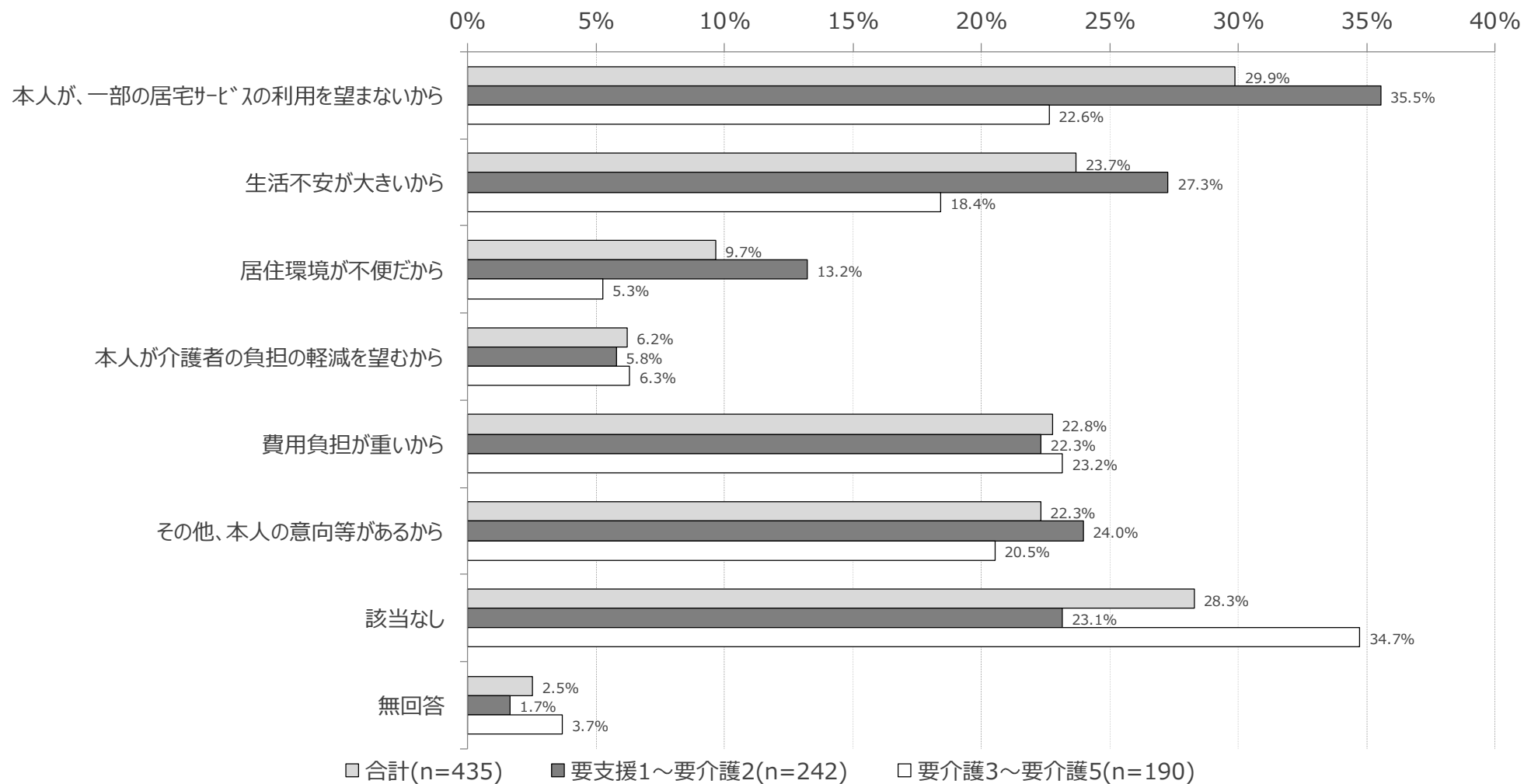


生活の維持が難しくなっている理由 (本人の状態に属する理由、複数回答)



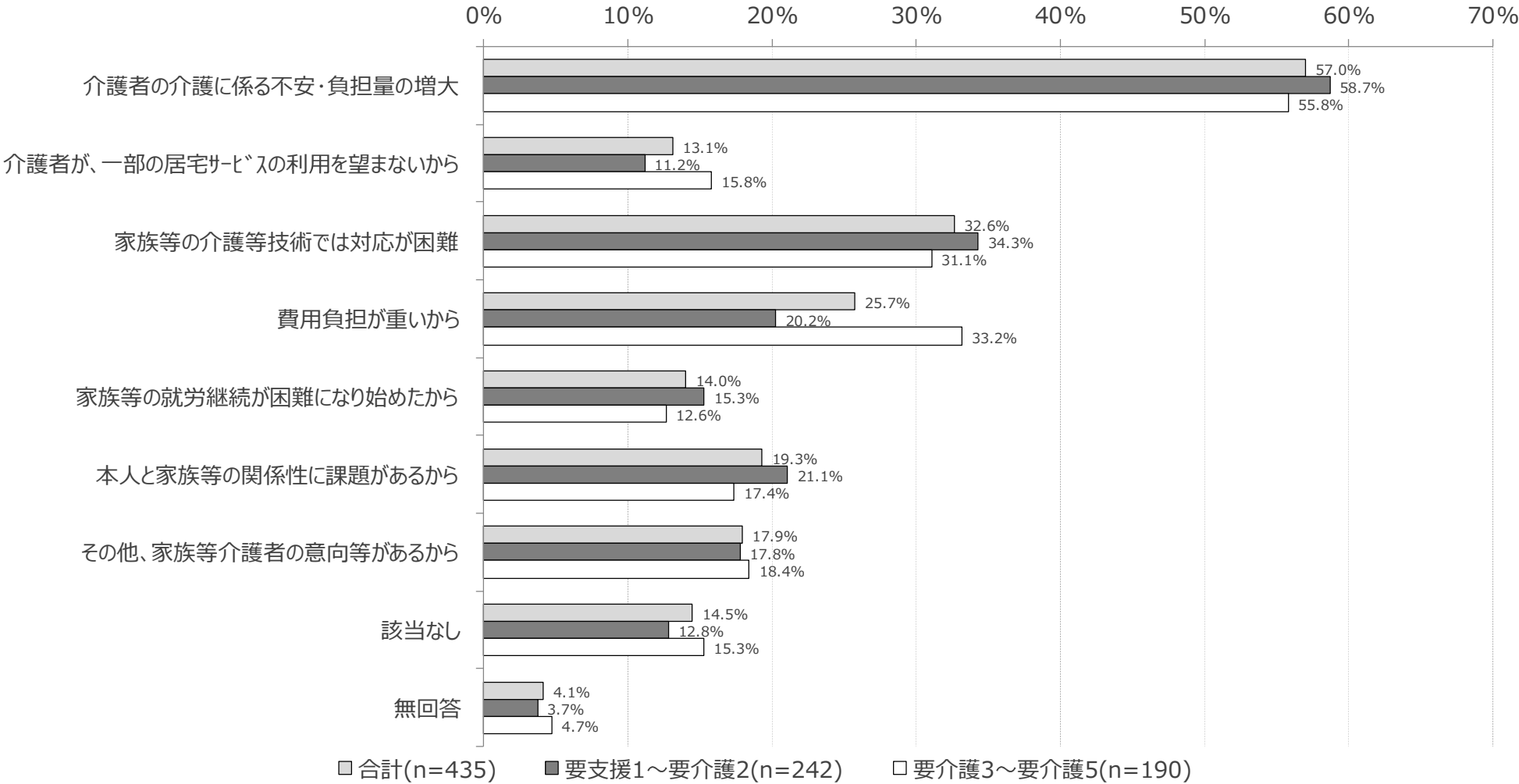
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由 (本人の意向に属する理由、複数回答)



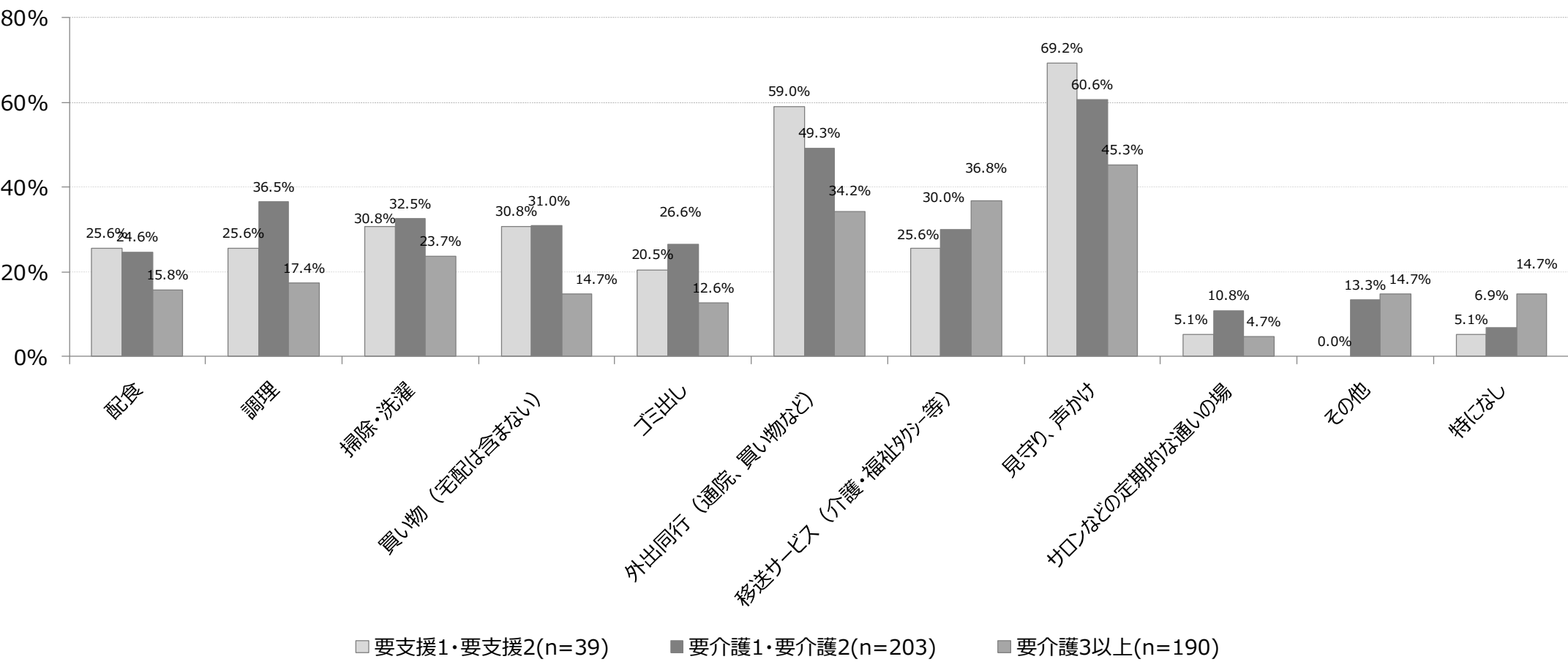
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

生活の維持が難しくなっている理由 (家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)

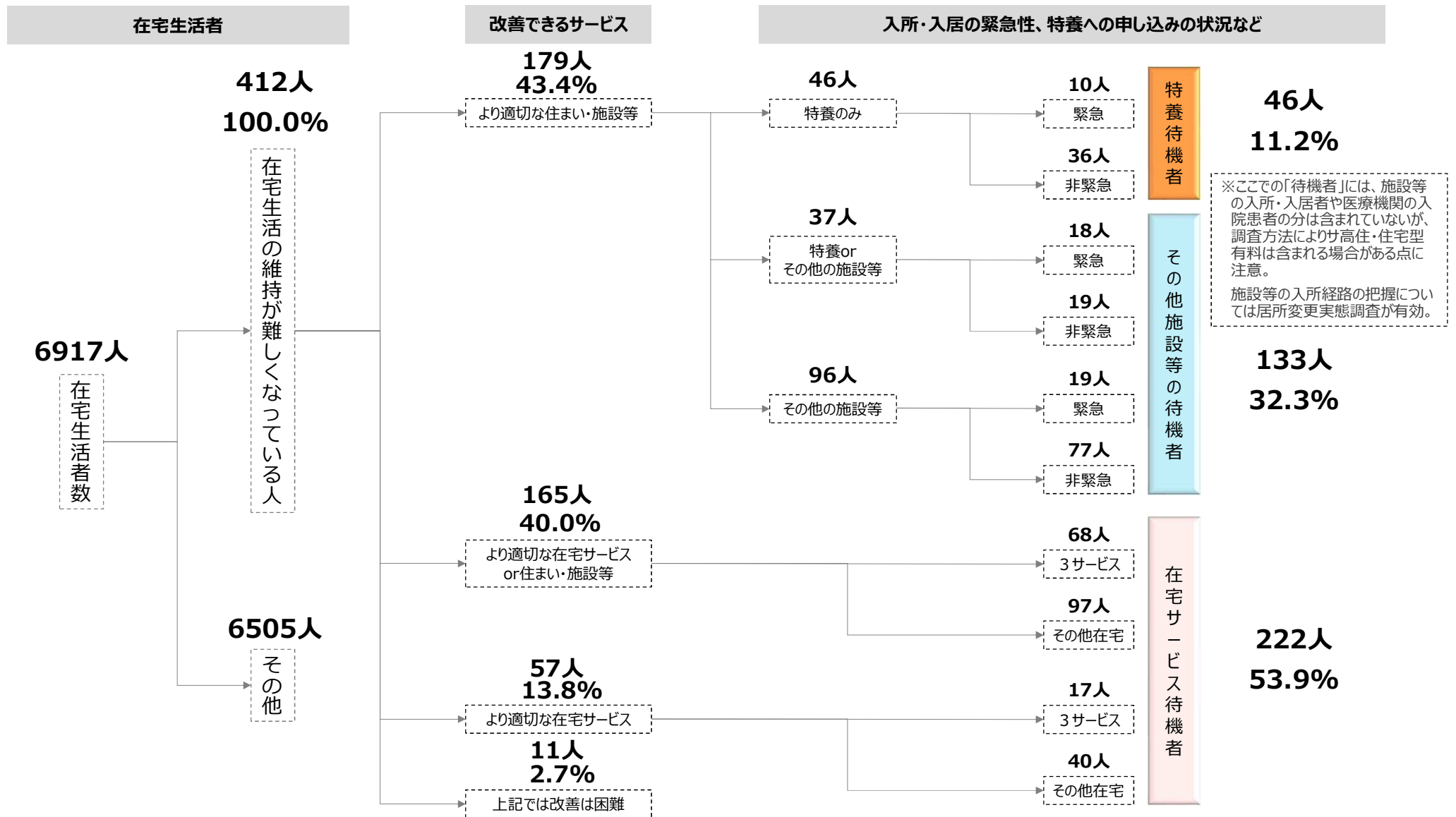


(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援



「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



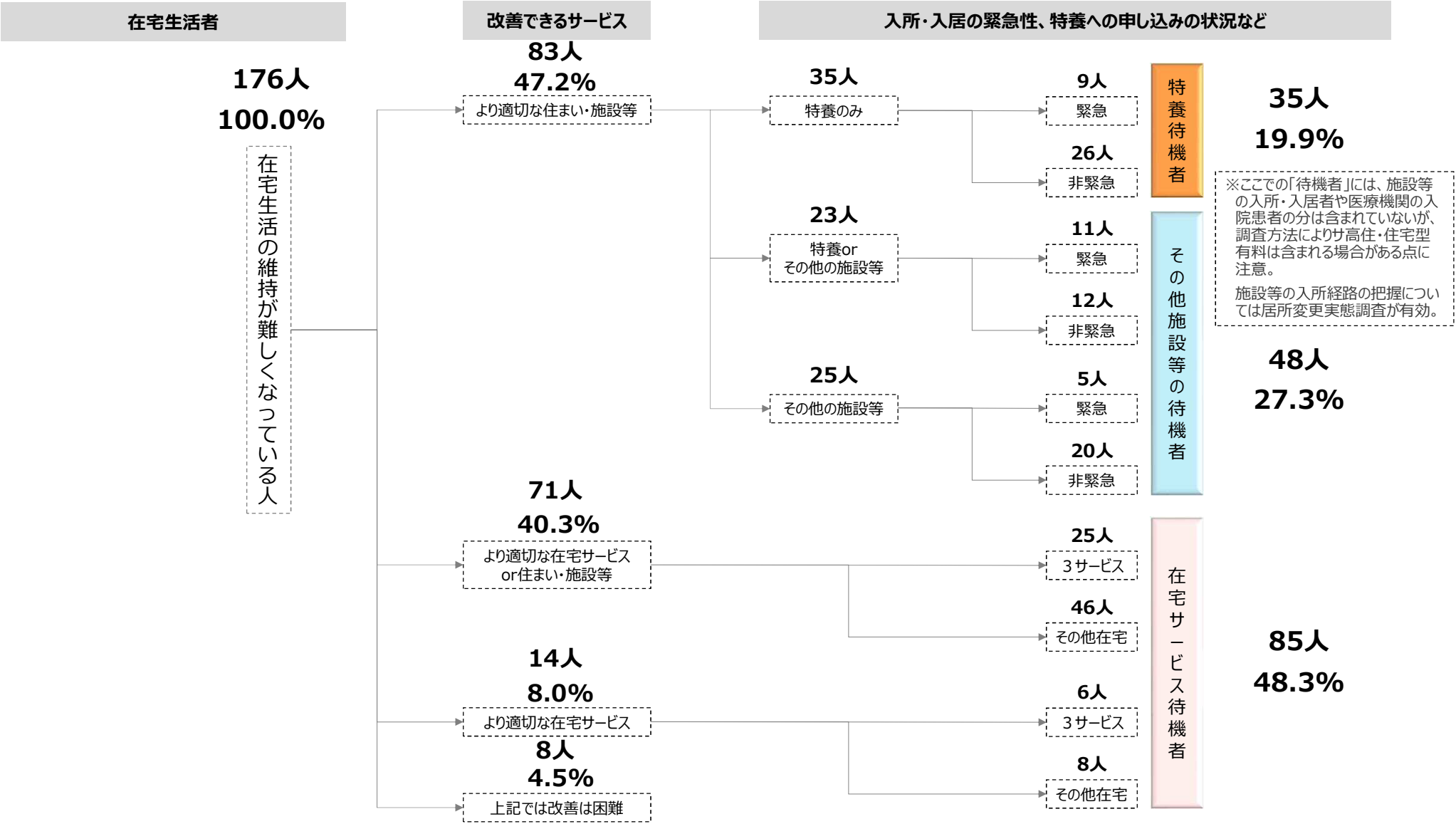
(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。

(注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計435人のうち、上記の分類が可能な412人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（％）は、412人を分母として算出したものです。

(注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。

(注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更（要介護3以上）



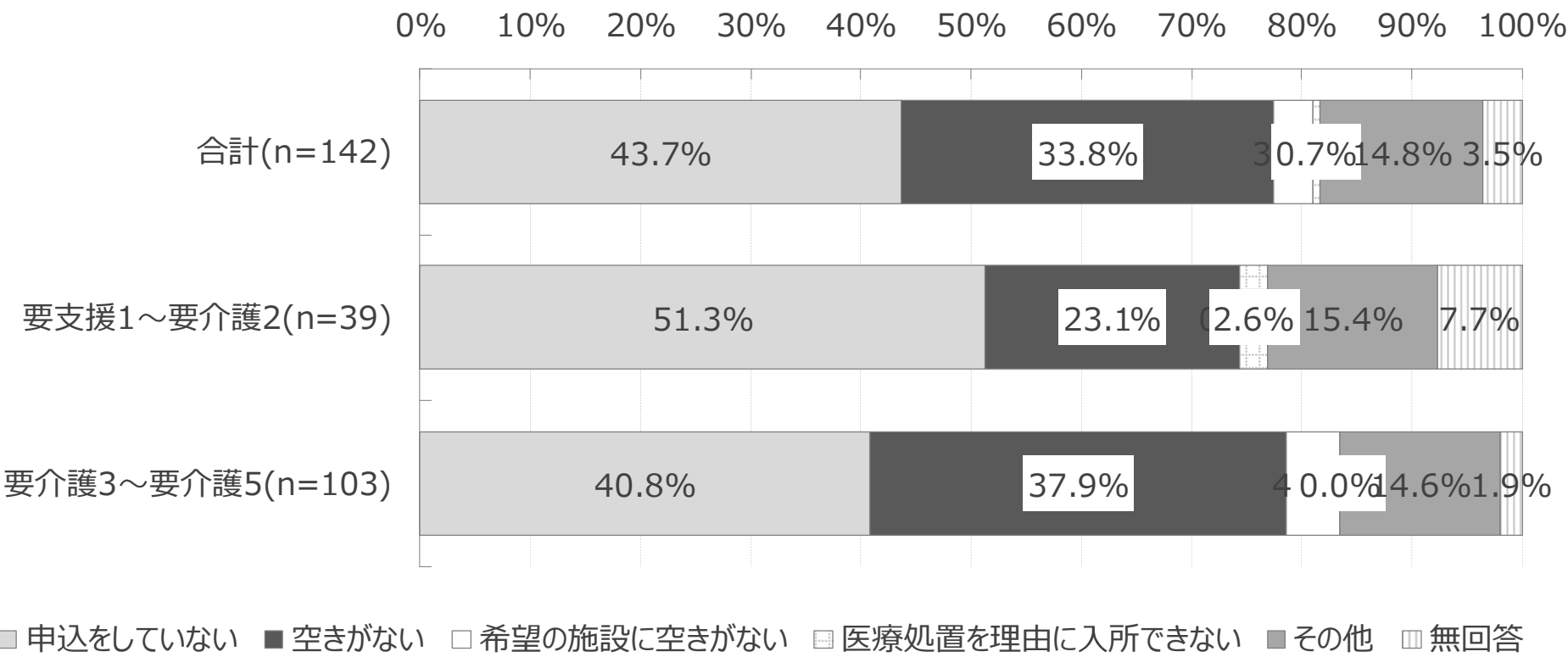
(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。

(注2) 「生活の維持が難しくなっている人（要介護3以上）」の合計190人のうち、上記の分類が可能な176人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（％）は、176人を分母として算出したものです。

(注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。

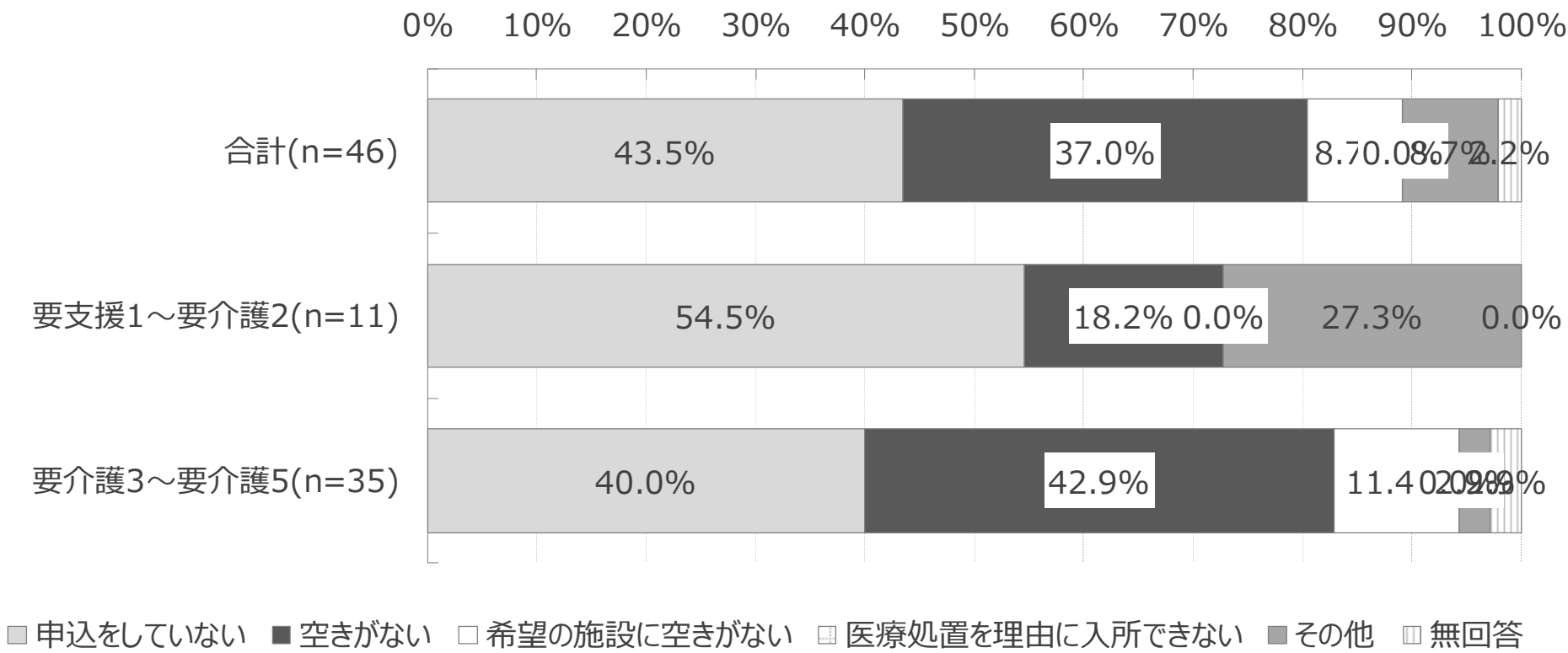
(注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

特養に入所できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養を選択した人)



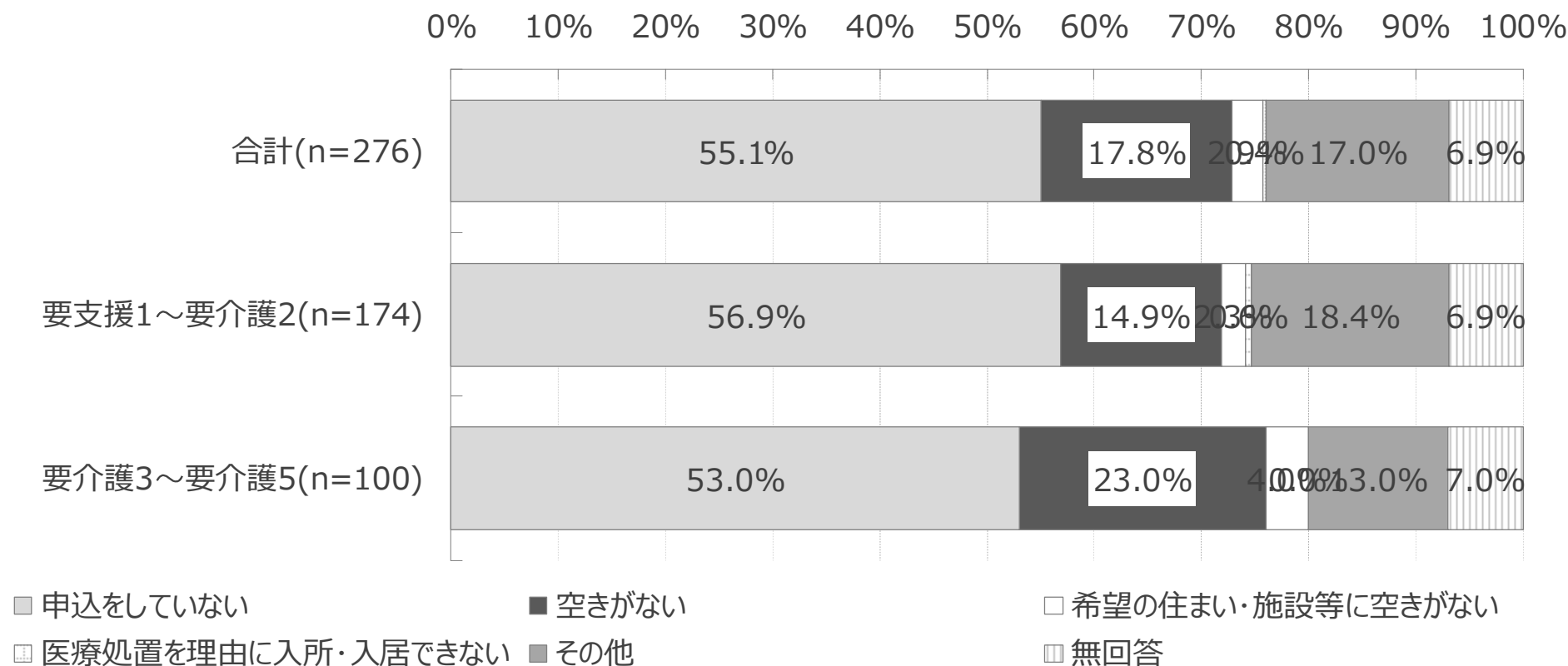
(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

特養に入所できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養のみを選択した人)



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由 (改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)



(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。